

# 春の叙勲

## 県内技師の技術向上に力

### 旭日双光章



「受章に恥じないように仕事に励みたい」と語る中村源之助さん

放射線技師として約50年間、数多く患者の診療に携わった。診療機器が日々進化を遂げる中、県放射線技師会の会長として、県内の技師の技術向上にも力を尽くしてきた。

2004年、国内外の放射線技師ら約4千人が長崎市に集まった「放射線技師会総合学術大会」と「日韓台合同学術大会」では、組織委員長として運営に奔走。シンポジウムで「医療被ばくの低減」の

元県放射線技師会会長

なかむら げんのすけ  
**中村 源之助さん**(73)

＝長崎市京泊1丁目＝

必要性を喚起するなど、「医学発祥の地であり被爆地でもある長崎で、意義のある大会が開催できた」と胸を張る。診療機器の進歩は目覚ましく、常に技師の「学び」が重要な仕事。県技師会として、講師を招いて新しい技術や知識を伝える独自の研修会も開いてきた。今後について、「受章に恥じぬよう仕事に励みたい。培った技術や経験は、可能な限り若手に伝えていきたい」と語った。(三代直矢)

活動、研さんに光

2017年(平成29年)4月29日 土曜日 特集 (20)

県内 話題の受章者